

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月10日

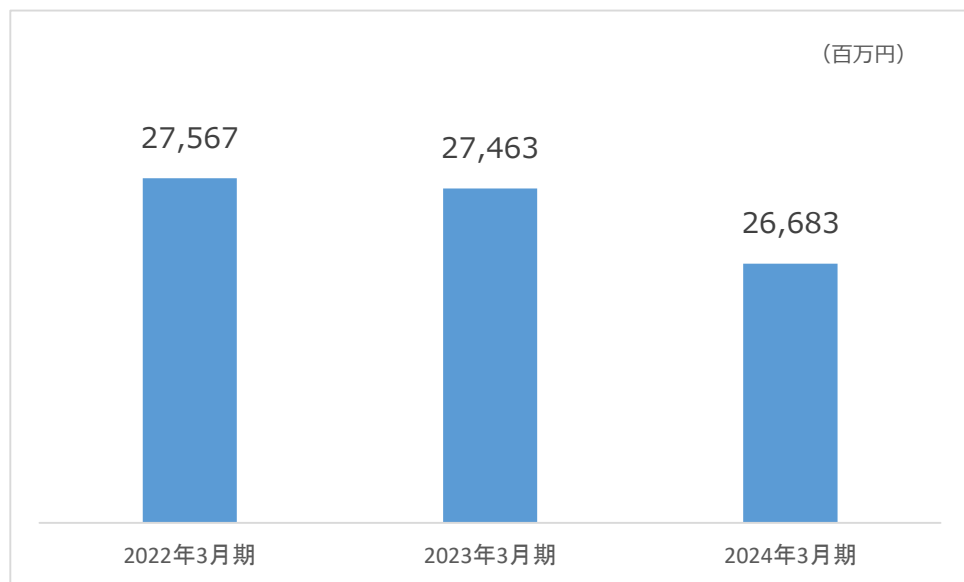
日本ピグメント株式会社

2024年3月期 決算について

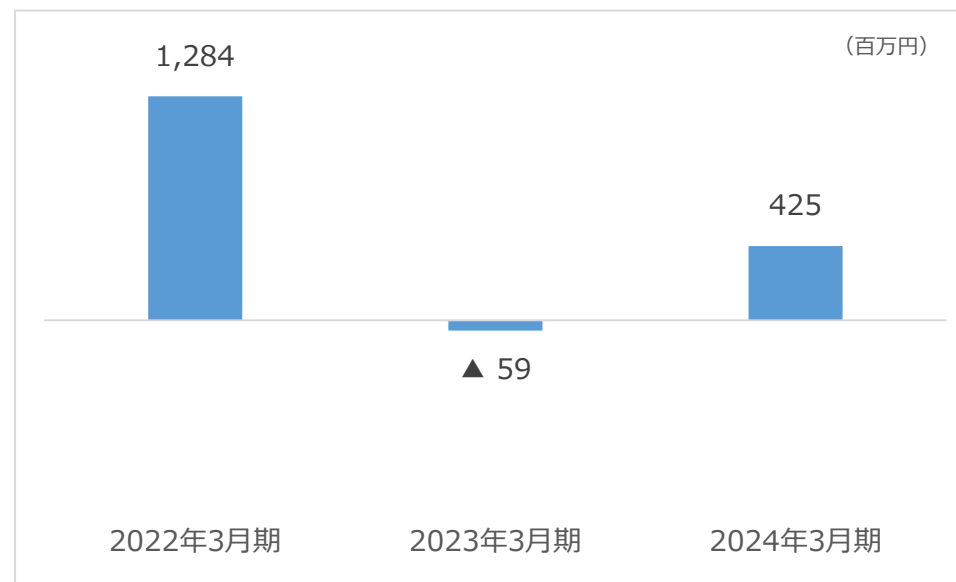
2024年3月期 業績ハイライト

樹脂関連需要低迷の影響等から国内を中心に売上高は減少
 販売数量減少の影響はあったものの、価格改定、商品構成の変化等の効果もあり営業利益は黒字化

売上高



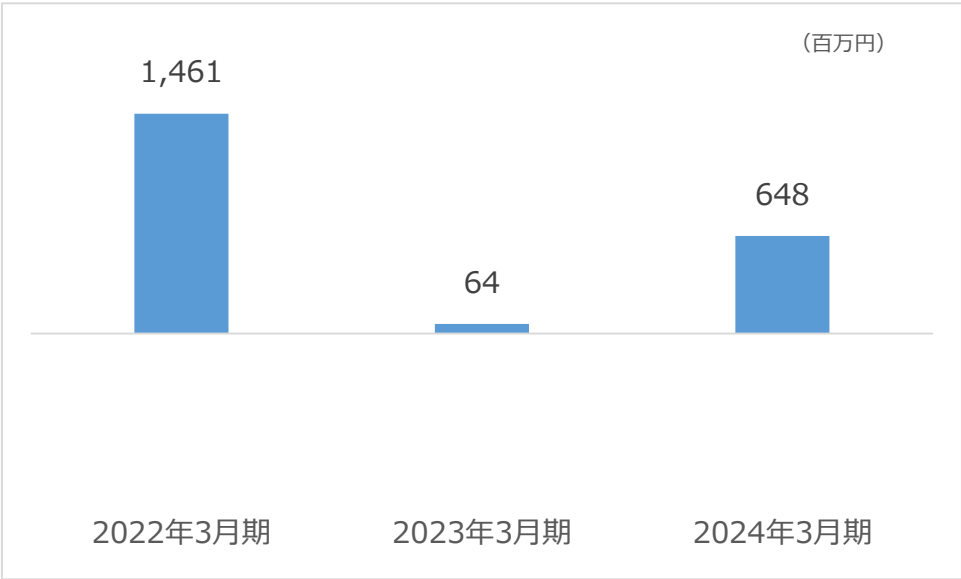
営業利益



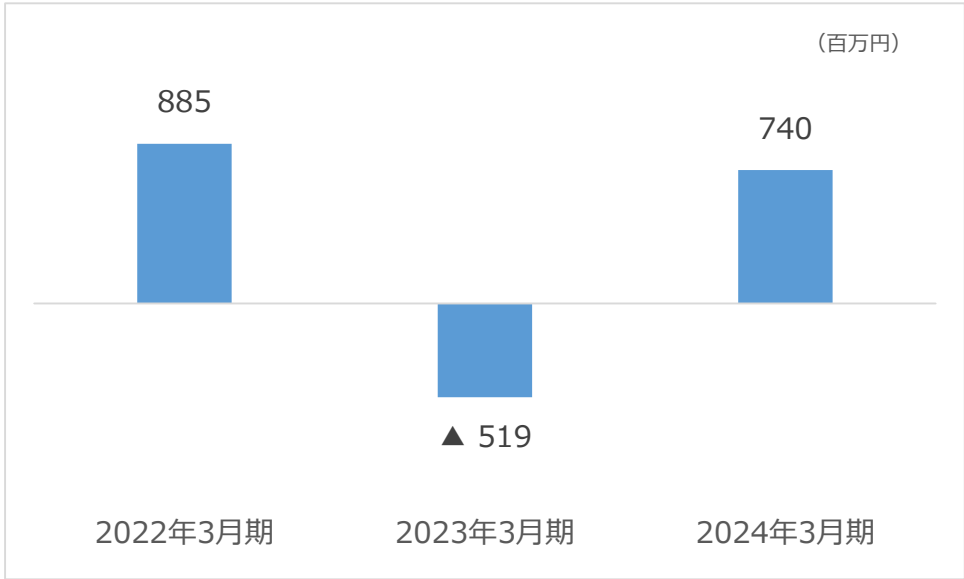
2024年3月期 業績ハイライト

経常利益は前年同期比で増益
 親会社株主に帰属する当期純利益は為替換算調整勘定取崩益等もあり、740百万円を計上

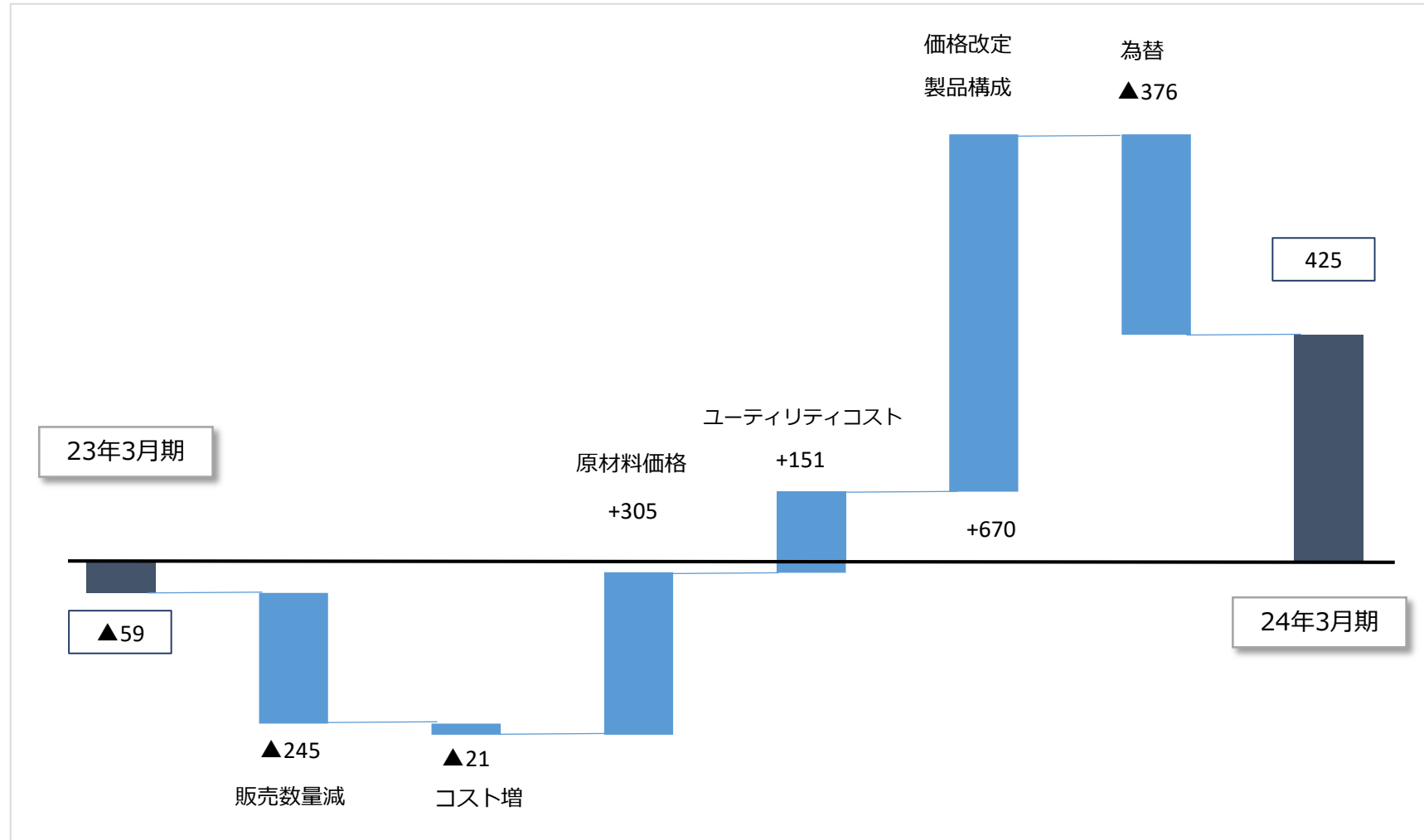
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



2024年3月期 連結営業利益の増減要因



2024年3月期 セグメント別実績概況

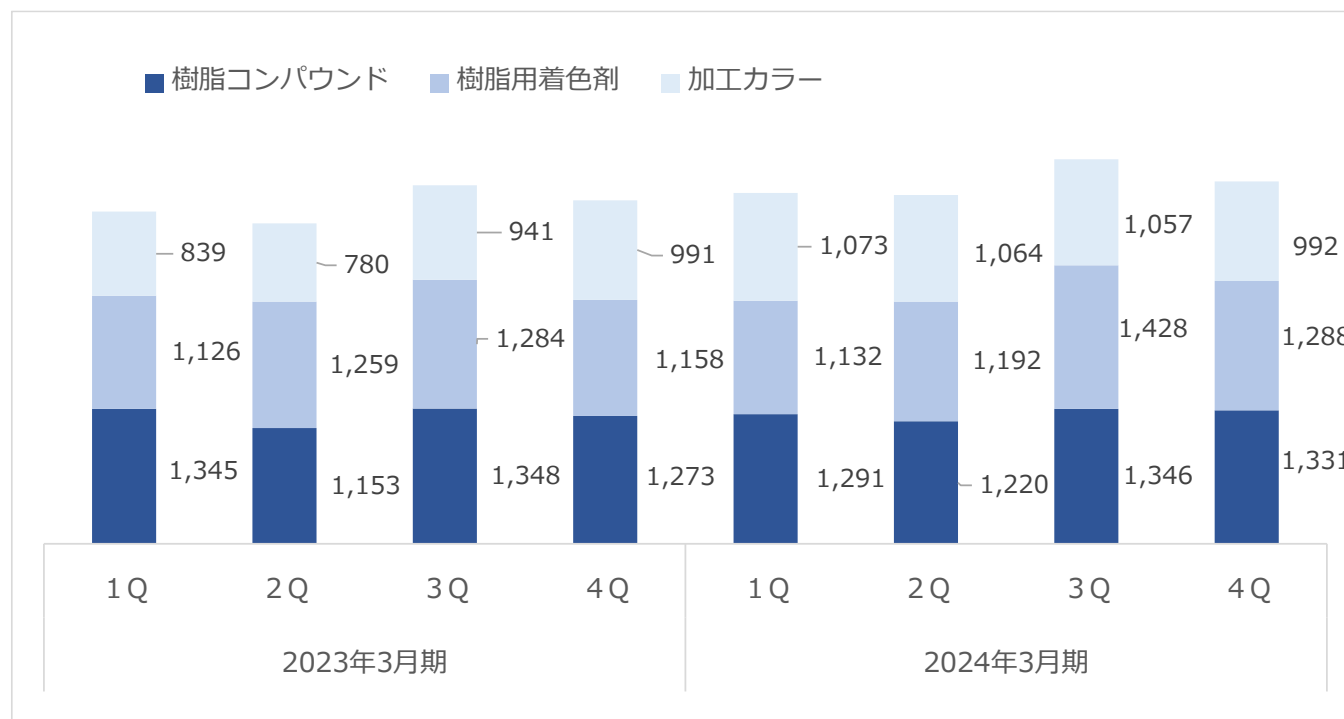
① 日本

○ 国内樹脂需要低迷の影響はあったものの、売上は増加

- 自動車向け需要は底入れも、樹脂全般で需要減少。樹脂コンパウンド部門は売上減
- 樹脂用着色剤部門は、化粧品向け等の需要回復、飲料向け販売も堅調であり、売上増加
- 加工カラー部門は、大型液晶パネル用途向け液体分散体需要の回復、自動車内装向けなども堅調に推移し、売上は増加

【セグメント別売上高の推移】

(百万円)



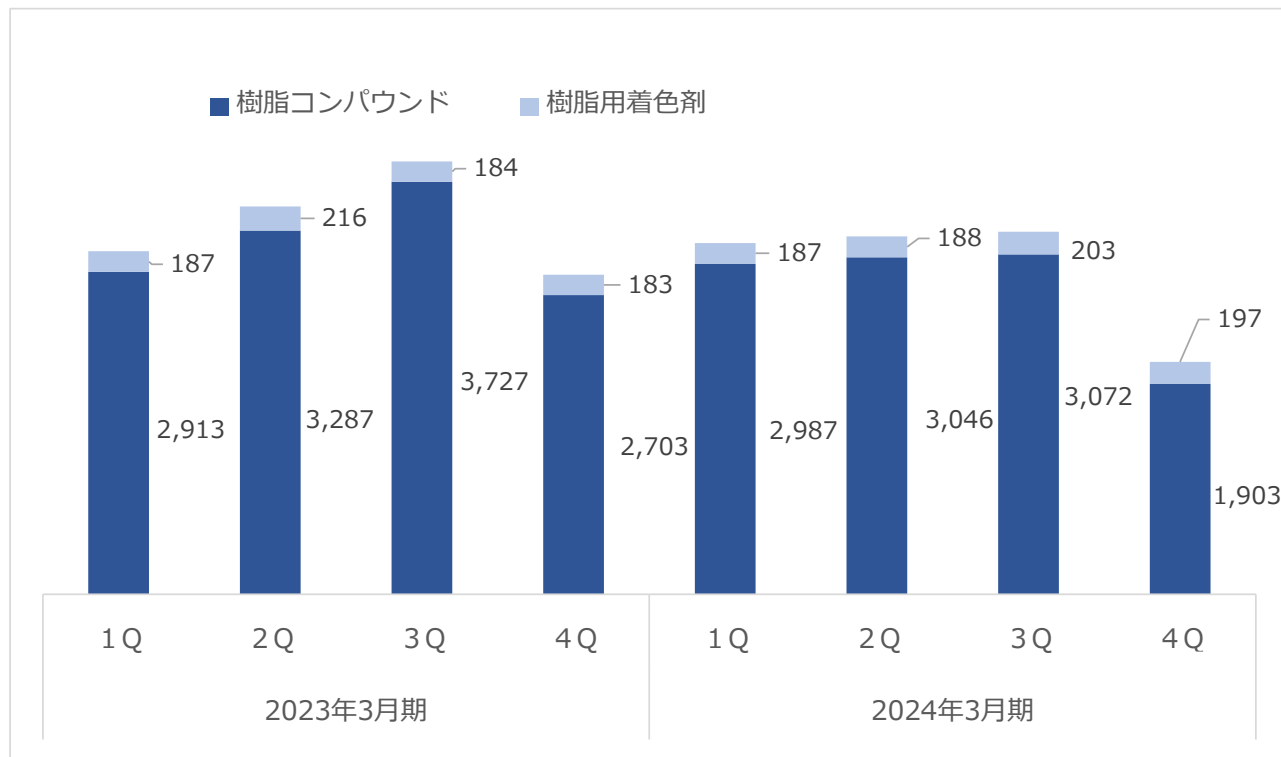
2024年3月期 セグメント別実績概況

② 東南アジア

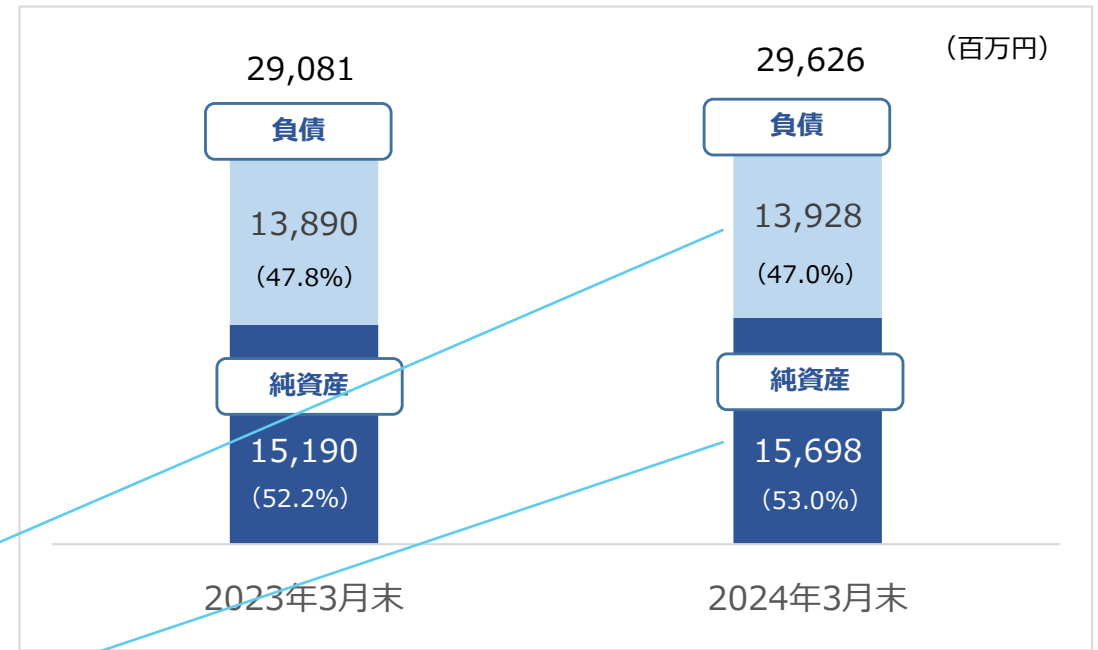
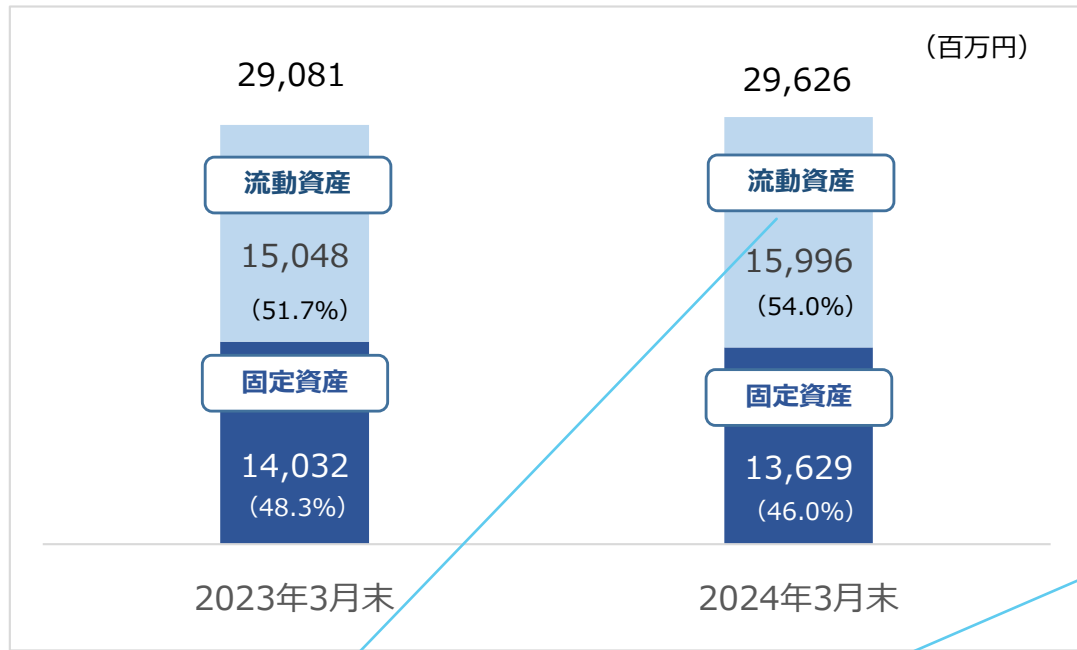
- 中国をはじめとするアジア各国での需要低迷もあり、販売は減少
- 一方、販売構成の変化等もあり営業利益は増加

【セグメント別売上高の推移】

(百万円)



連結貸借対照表等の概況



資産

- 現金及び預金の増加

負債

- 長期借入金、短期借入金が減少

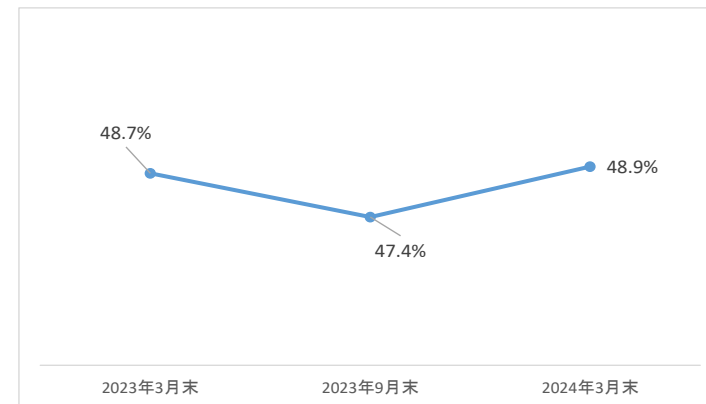
純資産

- 利益剰余金の増加

D/Eレシオ

0.30 (2023年3月末 0.45)

自己資本比率



連結損益計算書の概況

| | 2023年3月期 | 2024年3月期 | (百万円) 増減率 |
|------------------------|----------|----------|--------------|
| 売上高 | 27,463 | 26,683 | ▲ 2.8% |
| 売上総利益 | 3,188 | 3,782 | 18.6% |
| 販管費計 | 3,247 | 3,356 | 3.4% |
| 営業利益 | ▲ 59 | 425 | - |
| 営業外収益計 | 350 | 310 | ▲ 11.4% |
| 営業外費用計 | 227 | 87 | ▲ 61.7% |
| 経常利益 | 64 | 648 | 912.5% |
| 特別利益計 | 392 | 1,527 | 289.5% |
| 特別損失計 | ▲ 1,325 | ▲ 613 | ▲ 53.7% |
| 税金等調整前当期利益 | ▲ 869 | 1,563 | - |
| 法人税等計 | ▲ 355 | 722 | - |
| 当期純利益 | ▲ 514 | 841 | - |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | ▲ 519 | 740 | - |

特別利益、特別損失の計上について

○ 特別利益 1,527百万円の主な内訳は以下のとおり

- ・ 投資有価証券の売却による売却益 653百万円
- ・ シンガポール法人の清算終了に伴う為替勘定調整勘定取崩益 871百万円

○ 特別損失 ▲613百万円の主な内訳は以下のとおり

- ・ コンパウンド事業の生産拠点再編に伴う減損損失 ▲291百万円
- ・ 中国国内の事業環境悪化に伴う収益性の低下による中国法人の固定資産の減損損失 ▲305百万円

株主還元について

- 当社の配当に関する基本方針は、株主の皆様への安定配当の継続を基本に、当期と今後の業績及び営業基盤強化のための内部留保を勘案して決定

⇒ 2024年3月期配当額は、従前公表のとおり1株あたり100円を予定

| | 2022年3月期実績 | 2023年3月期実績 | 2024年3月期予定 |
|----------|------------|------------|------------|
| 1株あたり配当額 | 100円 | 100円 | 100円 |

2024年度の事業環境見通し

- 足許の外部環境は、①地政学リスクの高まり、②樹脂需要回復の不透明感、③円安傾向の長期化など、不透明な状況が継続する見通し

日本

- 自動車向け需要は底堅い推移を見込むものの、樹脂需要全体の回復には不透明感が残存。また、製造関連コストの低下は見込み難いことから、一層の効率的な運営を推進
 - ・ 樹脂コンパウンド部門は、下期以降の樹脂需要回復を期待
 - ・ 樹脂用着色剤部門は、飲料向け、化粧品向け等を中心に幅広い用途での販売増を目指す
 - ・ 加工カラー部門は大型パネル用途向け需要の堅調推移とともに、建材向け用途等、内装材関連等での販売増を目指す

東南アジア

- 中国経済動向に不透明感が残るものの、東南アジア各国の内需向け販売増など、増収を目指した運営を継続

2025年3月期 通期の連結業績見通しについて

| | 2024年3月期 | 2025年3月期 見通し | (百万円) 増減比 |
|------------------------|----------|-----------------|--------------|
| 売上高 | 26,683 | 42,000 | 57.4% |
| 営業利益 | 490 | 450 | ▲ 8.2% |
| 売上高営業利益率 | 1.8% | 1.1% | ▲ 38.9% |
| 経常利益 | 693 | 600 | ▲ 13.4% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 783 | — | — |
| 1株あたり当期純利益 (円) | | | — |
| 年間配当/株 (円) | 100 | 100 | — |

- 4月30日付での住化カラー株式会社の株式取得に伴い、負ののれんの計上を見込むものの、現時点での金額の把握が困難なため、親会社株主に帰属する当期純利益は、影響額を精査し開示が可能になった段階で速やかに公表する予定です。

中期経営計画

“Change&Evolution 2025”

進捗状況について

中期経営計画“Change&Evolution 2025” 業績推移と振り返り(FY.2021~2025)

| 連結売上高 営業利益推移 | | 1st year | | | 2nd year | | 3rd year | 4th year | | 5th year |
|-------------------|-------|----------|--------|--------|---------------------|--------|----------|---------------------------|--------|----------|
| | | 2021年度 | | 2022年度 | | 2023年度 | 2024年度 | | 2025年度 | |
| | | 実績 | | 実績 | | 実績 | 業績予想 | | 中計目標 | |
| 売上高 | (百万円) | 27,567 | 27,463 | 26,683 | 住化カラー との 経営統合 | 42,000 | ↔ | 30,000 ⇒ <u>43,000</u> | | |
| 営業利益 | (百万円) | 1,284 | △ 59 | 425 | | 450 | ↔ | 2,000 ⇒ <u>1,000</u> | | |
| 親会社に帰属する 当期純利益 | (百万円) | 885 | △ 519 | 740 | | - | | 1,400 ⇒ <u>600</u> | | |
| EBITDA | (百万円) | 2,427 | 1,092 | 1,358 | | - | | - | | |
| ROE | (%) | 6.6 | △ 3.7 | 5.2 | | - | | - | | |
| D/ELレシオ | - | 0.7 | 0.5 | 0.3 | | - | | - | | |

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2021~2023年度 計画進捗状況

国内外の既存生産体制の再構築や新たな事業機会(液体分散体事業関連)の各種施策は実行しているものの事業の前提となる外部環境の変化が想定を大幅に超え、ユーティリティと労務費増の影響が響き収益結果に繋がっておらず

2024~2025年度 目標着地点の修正

2024年度業績においては現状のコスト増要因に加えて、経営統合によるコストを先行的に考慮する必要がある
⇒収益へのシナジー寄与が後ろ倒しとなる見込み

事業再編の抜本的・多角的な改革が必要となる要因

サステナビリティに配慮した企業経営の実践
(一定の成果はあるものの、取り組みを継続的に実行)

持続可能な社会への貢献



地政学リスクの高まりに伴う
ユーティリティコストの上昇

当初想定を大きく上回るコスト増
生産体制の更なる最適配置化
AI,DX/GX対応に課題



外部環境の急速な変化



新しい技術領域の発展
市況の変化

非自動車産業事領域の販路開拓に課題
(機能性マスターバッチ、化成品・液体分散体の商品開発力と販売力を更に強化する必要)

労働人口の減少
働き方の時代変化
賃上げ圧力の強まり



輸入原料の高騰
想定為替との乖離

最適配置による能力最大化、
ダイバーシティ&インクルージョンの推進の出遅れ

購買販路を拡充し、調達最適化を行う必要

シナジー効果の早期実現



PRODUCTION

生産効率化の推進
最適な生産体制の実現

【具体的施策】

- ① 中国3拠点の最適化に向けた再編検討
- ② 国内拠点の「スクラップ&ビルト」
-大阪地区等の再編計画の策定・実行



RESEARCH & DEVELOPMENT

新規領域でのスピード感ある
上市体制の構築

【具体的施策】

- ① 両社の開発部門の協業体制構築
-2024年度から人事交流を開始
- ② 半導体向け等の金属材料の上市



SALES SEGMENTATION

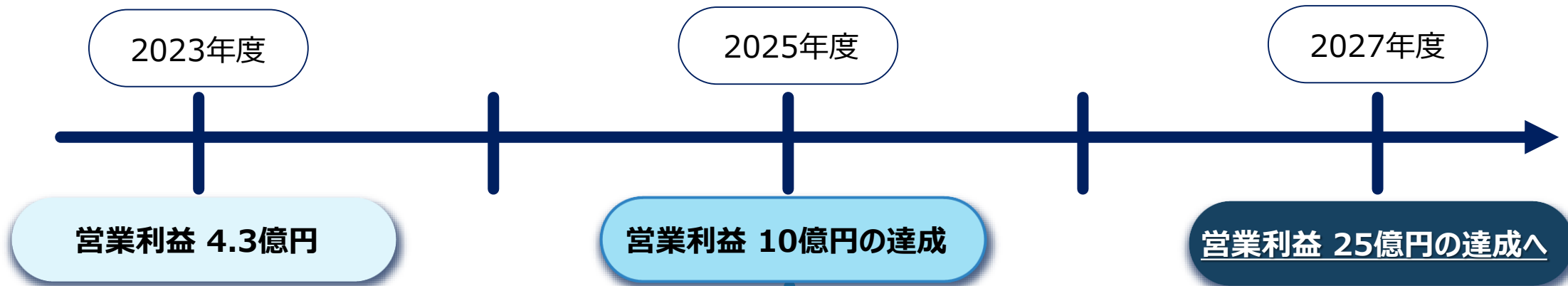
拡大した製品
ラインナップの活用

【具体的施策】

- ① マスターバッチ販売の強化、拡大
-多様な用途への対応力強化
- ② 東南アジア地域でのマスターバッチ販売の強化

両社のシナジー効果の早期実現により
2027年度の営業利益目標を25億円に設定、達成を目指す

経営統合後の営業利益目標



2024年度

次の100年をリードする

2025年度

事業基盤の再編・構築へ

- シナジーの早期実現に向けた足固め
- 次の飛躍に向けた施策の推進
(生産効率化、製品上市スピード強化)

統合シナジーの着実な実現

2030年の更なる飛躍
のための施策展開

⇒ 次期中期経営計画に
向けた具体化

吸収分割契約の締結について

1. 持株会社体制への移行について

- 2024年5月10日に吸収分割契約を締結し、定時株主総会での承認を条件として、当初予定通り2024年10月1日に持株会社体制に移行
- 10月1日に当社の商号を「株式会社日本ピグメントホールディングス」に変更

●本件吸収分割後の状況（2024年10月1日現在（予定））

| | 吸収分割会社 | 吸収分割承継会社 |
|----------|---------------------|------------------------------------|
| (1) 名称 | 株式会社日本ピグメントホールディングス | 日本ピグメント株式会社 |
| (2) 所在地 | 東京都千代田区神田錦町3丁目20番地 | 東京都千代田区神田錦町3丁目20番地 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 田代 喜一 | 代表取締役社長 田代 喜一（予定） |
| (4) 事業内容 | グループ会社の経営管理等 | 樹脂コンパウンド及び樹脂用、塗料用、繊維用などの各種着色剤の製造販売 |
| (5) 資本金 | 1,481百万円 | 350百万円 |
| (6) 決算期 | 3月31日 | 3月31日 |

2. 持株会社体制への移行方法について

○ 今後の本件吸収分割の日程

| | |
|--------------|----------------|
| 吸収分割契約承認取締役会 | 2024年5月10日 |
| 吸収分割契約締結 | 2024年5月10日 |
| 吸収分割契約承認株主総会 | 2024年6月27日（予定） |
| 本件吸収分割の効力発生日 | 2024年10月1日（予定） |

○ 本件吸収分割の方式

本件吸収分割は当社を吸収分割会社とし、当社100%出資の株式会社日本ピグメント分割準備会社を吸収分割承継会社（以下「承継会社」といいます。）とする吸収分割により、当社が営む一切の事業（但し、グループ経営管理事業を除く。）を承継会社に承継させる予定です。

○ 本件吸収分割に係る割り当ての内容

承継会社は、本件吸収分割に際して、新たに普通株式3,400株を発行し、これを全て当社に割当交付いたします。

○ 本件吸収分割に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

○ 本件吸収分割により増減する資本金

本件吸収分割に際し、当社の資本金の増減はありません。

○ 承継会社が承継する権利義務

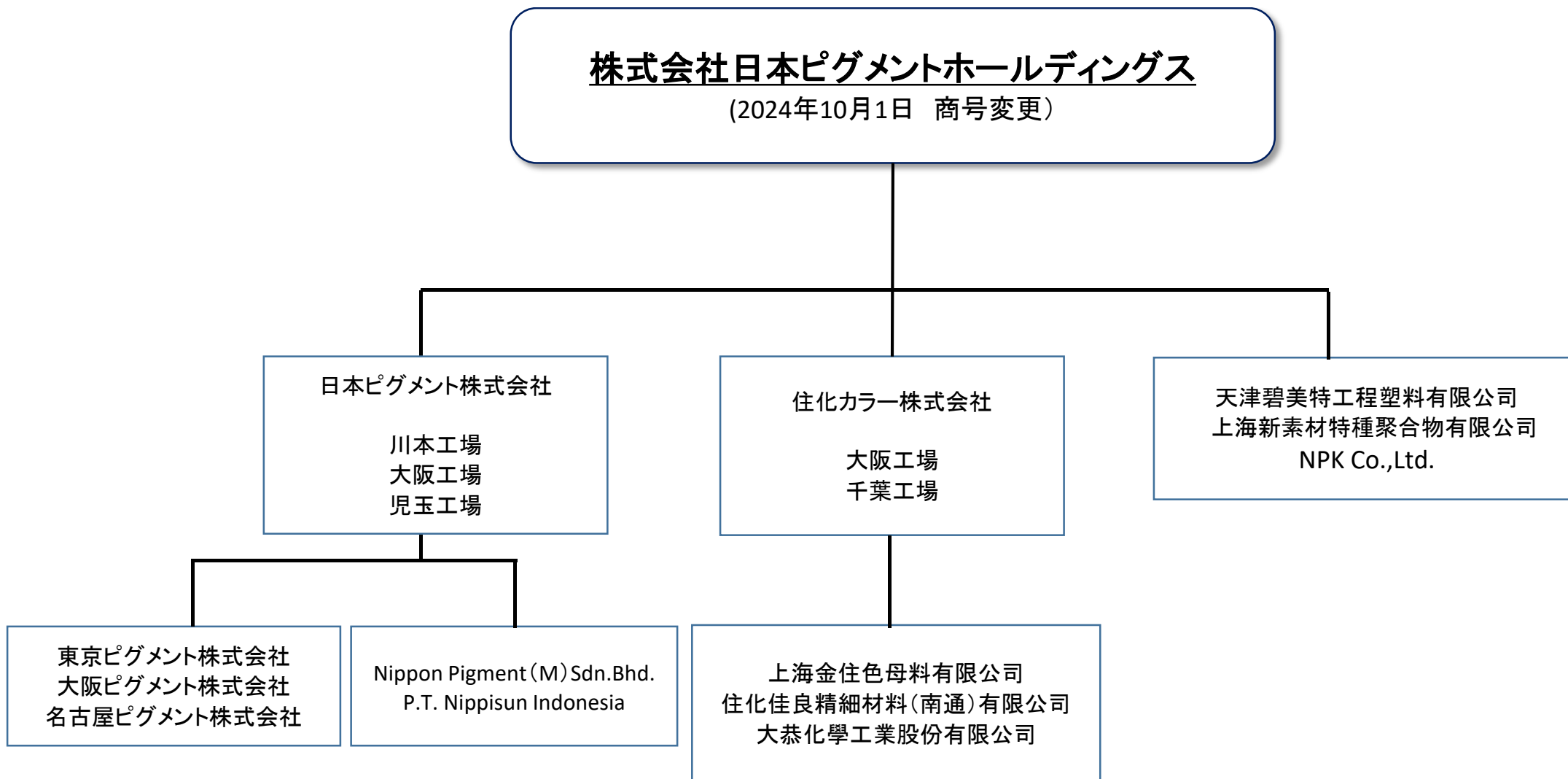
承継会社は、効力発生日において、本件吸収分割に係る吸収分割契約において規定するものを当社から承継いたします。

なお、承継会社が当社から承継する債務については、重疊的債務引受の方法によるものといたします。

○ 債務履行の見込み

本件吸収分割後において、当社に残存する資産の額と承継会社に承継する資産の額は、ともに当社に残存する負債の及び承継会社に承継する負債の額をそれぞれ上回ることが見込まれており、また、当社及び承継会社の収益状況においても負担すべき債務の履行に支障を及ぼすような事態が予想されていないことから、当社及び承継会社の債務の履行の見込みは十分に確保されていると判断いたします。

3. 2024年10月1日以降の持株会社体制



- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります

色のプロフェッショナルとして **100**年 -since1925-



日本**ピグメント**株式会社